

南瓜栽培技術情報 No 4

平成28年6月22日

組 合 員 各 位

J A 営農支援課
特産南瓜生産組合

病気の対策について

今年は降雨により、例年より多くの病気の発生が予想されます。十分な病害虫対策に努めてください。

1. 病害対策

昨年疫病が発生した圃場や排水不良の圃場がある場合、降雨が多い場合に疫病の発生が懸念されます。

薬剤名	成分系態	病害等	倍率	使用量 /10a	使用時期	本剤 使用回数
リドミル銅水和剤	塩基性塩化銅	疫病	800倍	100～300	収穫 14日前	3
Zボルドー粉剤 DL	無機銅	疫病	—	4kg	—	—
ジマンダイセン 水和剤	有機硫黄	つる枯病 べと病 炭疽病 疫病	600倍	100～300	収穫 21日前	2
イオウ フロアブル	硫黄	うどんこ病	500倍	100～300	—	—
ダコニール 1000	TPN	うどんこ病 白斑病 べと病	1000倍	100～300	収穫 7日前	3
スマレックス 水和剤	ジカルボキシ イミド	菌核病	1000～ 2000倍	100～300	収穫 14日前	3
ポリベリン水和剤	イミノクタジン酢酸塩 ポリオキシ複合体	うどんこ病	1000～ 2000倍	100～300	収穫 7日前	3

※薬剤を散布する際、展着剤を混ぜて使用してください。ただし乳剤の場合、展着剤は必要ありません。

※イオウフロアブル、Zボルドーは蜂への影響日数が1日となっております。

※銅剤は他の農薬と混用できませんのでご注意ください。

今年は雨が多いので、疫病に気を付けてください。

2. アブラムシ対策

定期的に薬剤散布を行う。薬剤選択に際しては、ミツバチへの影響を考慮し、下記の薬剤にて防除する。

薬剤名	成分 (系統)	使用量 (10a 当)	使用時期	本剤使用 回数	成分使 用回数	蜂への 影響日数
モスピラン 顆粒水溶剤	アセタミプリド (ネオニコチノイド)	2000～ 4000 倍	収穫前日まで	2	2	1 日
マブリック 水和剤	フルバリネート (ピレスロイド)	4000 倍	収穫 21 日前	2	2	1 日
馬拉ソン 乳剤	馬拉ソン (有機リン)	2000～ 3000 倍	収穫前日まで	5	5	7～10 日

※上記以外の薬剤を散布する場合には、ミツバチを撤去後散布する。

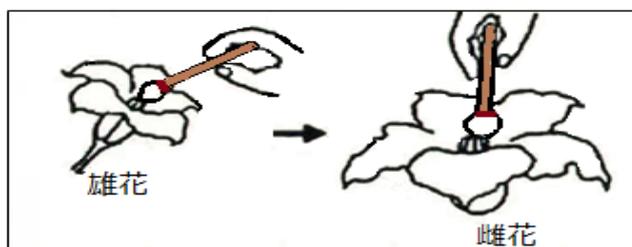
※モザイク病

葉脈の透過、緑帯、葉の奇形を伴う。病気の特性上病気が発生した場所より蔓先にしか症状は出ない。病気が発生した場所より株元には影響ない。病害ウイルスはアブラムシで伝搬される。

モザイク病が確認されている圃場もありますので、早めの虫対策をお願いします。

3. 交配について

・交配はミツバチと共に、人工交配で行うと確実。
[ホルモン剤での交配は絶対に行わないこと]
一番果については人工交配を実施し、確実に着果させるようにする。人工交配を行う際は、花粉活性の良い早朝に行う（10～12℃が適温）。



※人工交配は絵の具の筆を使うとやりやすい。

- ・ミツバチでの交配は養蜂箱を設置し、取扱い注意事項をよく読み使用すること。
※養蜂箱の設置申込みは JA 営農支援課 山田までお願いします。

着果後、およそ 45 日程度で収穫となりますので、収穫日の目安となるよう着果日を確認しておいてください。

雄花の開花が遅れ、花粉不足になっている方は、営農支援課 山田までご相談ください。

4. 果実への皿引き

着果後は果実がソフトボール程の大きさになったら果実の下に皿（トスコ F マット等）を敷く。